TGM

欧州メーカーと差別化

洗浄機カスタマイズ可能

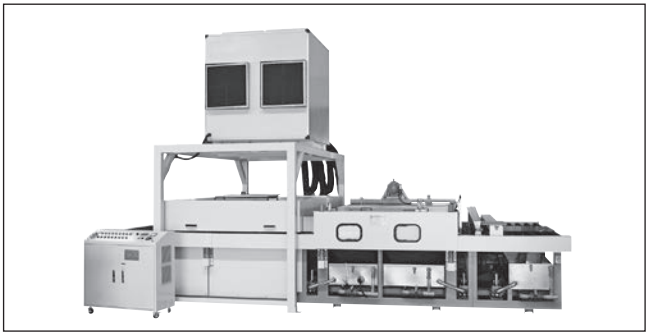
TGM（東京都千代田区、弘中崇社長、03・6261・1260）は、台湾・LCM（LI－CHUANG MACHINERY）社のガラス洗浄機を販売している。特長は、欧州メーカーの洗浄機では難しい、客の要望に合わせたサイズ、安全機能などのカスタマイズができること。エアナイフ、ディスク、スポンジなどさまざまなタイプがあり、建築用だけでなく産業用にも対応する。厚さ0・5ミリの薄物ガラスの洗浄機も製造できる。1月の宣伝時には特にエアナイフタイプが好評で、付加価値が高いディスクタイプの引き合いも多いという。LCM社は洗浄機、搬送コンベヤーの専業メーカーで、洗浄機では平型洗浄機に強みがある。日本でも評価が高く、納入実績を増やしている。

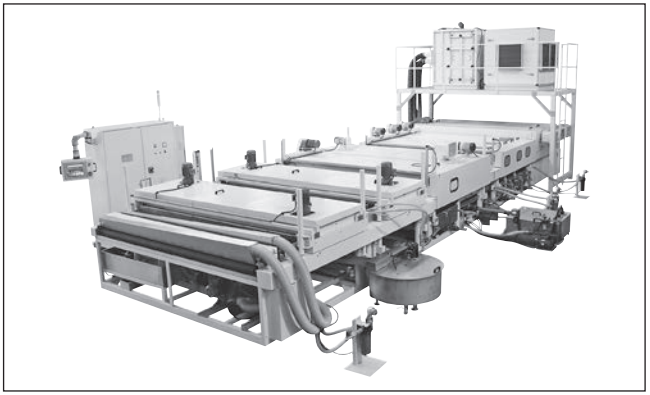
欧州メーカーの洗浄機の場合、数種類の特定のサイズのラインアップしかないため、日本では工場スペースの関係で、既製品では工場内に入らないこともあった。LCM社の洗浄機は、工場スペースに合わせて設備サイズのカスタマイズが可能で、日本でも評価が高い。

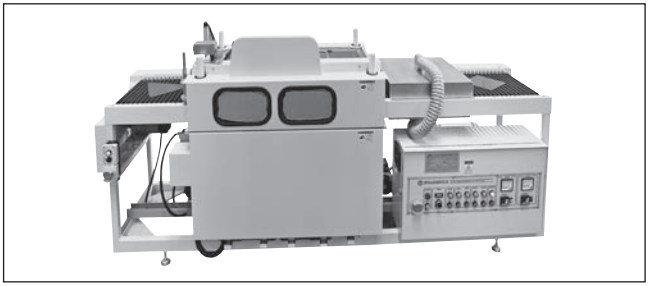
近年、ガラスの加工品質に対する要求が高まっており、同社にもガラス欠点検査システムの引き合いが増えている。高い精度でガラスの欠点を検出するためにもガラスの洗浄、乾燥が重要で、洗浄機には高い洗浄性能、乾燥性能が求められている。LCM社の洗浄機は洗浄性能を上げるためのブラシ数の追加、乾燥性能を上げるためのエアナイフ数の追加や安全機能のカスタマイズが可能。

エアナイフ、ディスク、スポンジなどさまざまなタイプがある。建築用だけでなく産業用に対応した設備もあり、厚さ0・5ミリの薄物ガラスの洗浄機も製造できる。洗浄能力が高いディスクタイプは納入実績が多い。

LCM社は1982年創業で、ガラス業界で36年の実績がある。台湾での社名は金吉利機械。認知度向上のため、2017年から海外ではLCMの社名を使用している。台湾で製造し、国内向けに60％、海外向けに40％の割合で販売している。海外にも多数の納入実績があり、600台以上を販売している。TGMが日本での総代理店を務める。







上からエアナイフ、付加価値が高く引き合いが多いディスク、スポンジタイプ